

消防署 だより

松前消防署 ☎ 984-3404
FAX 984-4011

火災の危険は炎以外にも 煙の特徴を知って命を守ろう

令和2年中の火災による死者は、全国で1,326人でした(消防庁発表)。特に、建物火災での死者が1,056人と大部分を占め、このうち899人が住宅火災で亡くなっています(放火自殺者などを除く)。

火災での死因として、やけどに次いで多いのが「煙死」です。煙死とは、煙に巻かれたり、有毒ガスを吸い込んだりして亡くなること。直接の死因となる以外にも、煙を吸い込んで気を失い、逃げ遅れるなど、煙が原因で命を落とした人が大勢います。

▶ 煙の特徴

● 広がるスピードが速い

横方向は秒速0.2～0.5mで、成人が歩く速さ(秒速1～1.2m)よりも遅いですが、縦方向には秒速3～5mもの速さで広がります。このため、階段や2階にはあっという間に煙が充満してしまいます。

● 視界が狭くなる

煙によって視界が狭くなり、避難する方向が見えなくなります。また、これによりパニックに陥る危険性もあります。

● 目や喉の粘膜への刺激

煙の刺激で目がチカチカして涙が出たり、喉がヒリヒリしたりして、心理的な動揺が大きくなります。

● 一酸化炭素中毒になる危険性

煙と一緒に発生する一酸化炭素は無色無臭。吸い込むと一息で意識を失う場合もあり、非常に危険です。

▶ もしも火事になったら

住宅火災の場合、火災発生から3～5分ほどで、炎や煙が立ち上り避難ができなくなります。避難が可能な時間はほんのわずかです。まずは、早期の初期消火や避難を考えましょう。

【日頃からの対策】

- 1 火災発生時の避難方法を家族で話し合っておく。
- 2 窓からの脱出方法を考えておく。
- 3 高齢者などの避難困難者は、1階など避難しやすい部屋を寝室にする。

【火災時の対応】

- 1 火災を発見したら、「火事だ!」と大声で叫んで家族や近所に知らせる。
- 2 天井まで火が達していたら、消火は諦めて避難を優先する。
- 3 貴重品の持ち出しよりも、避難を第一に考える。
- 4 煙を吸わないよう姿勢を低くし、ハンカチなどで鼻と口を覆い、落ち着いて避難する。



- 5 避難後は決して家の中に戻らない。

News

3月1日～3月7日

春季全国火災予防運動

おうち時間 家族で点検 火の始末

3月1日(火)から7日(月)までの7日間、全国一斉に春季火災予防運動が行われます。

皆さんも、この機会に火災の恐ろしさを再認識し、火災から「生命」「身体」「財産」を守るため、普段からできる対策を考え、てみましょう。

